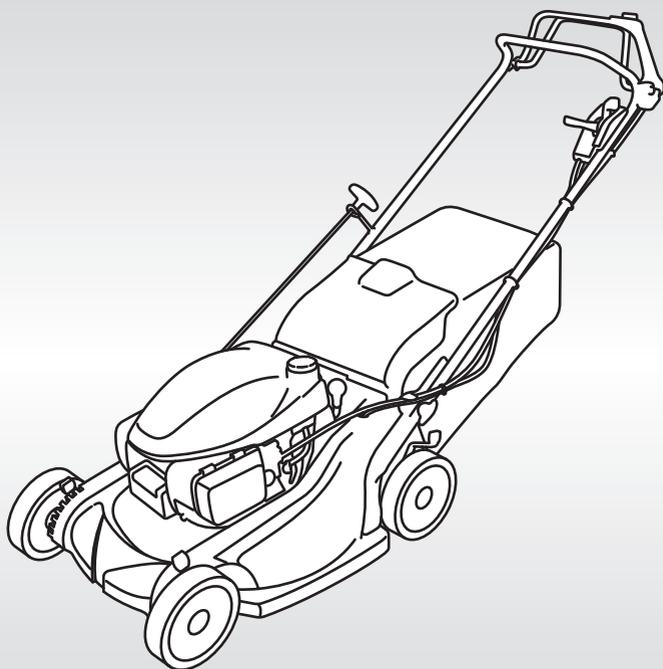


HONDA

芝刈機 HRX537 取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。



お買いあげありがとうございます。
お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、
ご意見などがございましたら、お買いあげいただきました販売店ま
たはサービス店にお気軽にお申しつけください。



本製品は、(一社)日本陸用内燃機関協会の排ガス自主規制に適合したエンジンを搭載しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた芝刈機で安全かつ能率的な芝刈り作業をする手助けとして編集されたものです。

取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。

本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性を説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠ 危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠ 警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠ 注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

取扱説明書について

この取扱説明書は

- 芝刈り作業をするときは、必ず携帯してください。
- 本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡してください。
- 紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店またはサービス店にご注文ください。

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目 次

安全にお使いいただくためにこれだけは必ず守りましょう	4
安全ラベル	7
各部の名称と取扱いをおぼえましょう	9
エンジン回転調節レバー	11
ブレードブレーキクラッチレバー	11
走行クラッチレバー	12
速度調節レバー	12
燃料コックレバー	13
始動グリップ	13
収納袋	13
刈取り高さ調節レバー	14
ハンドル固定ツマミ	15
クリップディレクターノブ	15
作業前に点検、調整をしましょう	16
作業前の点検	16
燃料の点検	17
エンジンオイルの点検	19
エアクリーナー（空気清浄器）の点検	20
刈刃の点検	21
刈刃締付けボルトの点検	23
収納袋の点検	23
エンジンのかけかた	24
運転操作のしかた	26
1 刈取り高さの調節	26
2 刈取り芝の処理方法選択	27
3 エンジン始動	28
4 運転操作	28
5 刈取り作業	31
6 収納袋の脱着	34

エンジンのとめかた.....	35
定期手入れを行いましょう	36
定期点検整備項目	36
点検・整備のしかた.....	37
エンジンオイルの交換	37
エアクリナー（空気清浄器）の清掃・交換	39
点火プラグの清掃、調整、交換	40
ブレードブレーキクラッチケーブルの点検、調整	41
走行クラッチケーブルの点検、調整	42
長期間使用しないときの手入れ	44
故障のときは.....	47
主要諸元	49
本機の組立てかた	50

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作になれ、すばやく停止する方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法を良く説明し、取扱説明書を良く読むように指導してください。
- 過労や飲酒、薬物を服用して本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 日常点検、整備を行い本機を常に良好な操作状態にしておいてください。不具合な状態や問題のある状態で操作すると、ケガをしたり本機を損傷する原因となります。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して、換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花などを近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように注意して、給油限界位置を超えないように補給し、燃料タンクキャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合はきれいにふき取り、良く乾かしてからエンジンを始動してください。ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。
- 屋内や換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。

警告

- 衣類や頭髮、手ぬぐいなどが巻き込まれないように作業に適した服装をし、防護メガネ、作業に適した靴などを用いて作業してください。
- 夜間や悪天候などで視界の悪いときは作業しないでください。事故の危険性が高くなります。
- 放出物や衝突による事故防止のため、作業範囲内の石、空き缶、板切れなど全ての異物を取除いてください。
- 土や砂利などの上では刈刃を回転させないでください。石などの異物が飛び出すおそれがあります。
- 収納袋を取りはずすときは、エンジンを停止してください。
- 本機を使用する前に必ず刈刃を点検してください。刈刃が摩耗、損傷していると破片によって大ケガをすることがあります。点検は必ず厚手の手袋を着用してください。
- 本機を使用する前に収納袋を点検してください。すり切れたり穴のあいている物、また縫い目がほころびている物は新品に交換してください。
- 外気温が 5℃未満になる様な環境で使用すると防護装置が損傷し、事故を起こす可能性があります。
- 本機は芝刈り作業以外の目的で使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- 芝が濡れていたり、雨天のときは芝刈り作業をしないでください。転倒の危険が増します。

●作業中

- エンジンが始動しているときは、手や足を刈刃カバーの上におかないでください。刈刃は鋭くつながっていて高速で回転しています。誤ってさわると大ケガをします。
- 作業範囲内に石などの異物があると、刈刃の回転力により石飛びが発生することがあります。作業範囲内に人や動物などを近づけないでください。もし人や動物が近づいたら作業を停止してください。
- 作業中はハンドルをしっかり持ち足元に注意してください。転倒するおそれがあるので走らず本機の色度合に合わせ作業してください。
- 移動、方向転換するときは、刈刃を停止させ、走行クラッチレバーのみ使用して行ってください。刈刃が回転していると異物などの飛び出しにより大ケガをするおそれがあります。
- 傾斜地での芝刈りは、上下方向でなく、横方向（等高線方向）に行ってください。また急な斜面では作業しないでください。転倒するおそれがあります。

警告

- 本機に草や木の葉を蓄積させたままにしないでください。草や木の葉は燃えやすく特にエンジンの近くにあると火災の原因となります。
- エンジン運転中は、刈取り高さの調節をしないでください。誤ってレバーを操作されると本機が動き出し大ケガをするおそれがあります。
- 作業中本機や刈刃が障害物に当たったときはすぐにエンジンを停止させ、万一の始動を防止するために点火プラグキャップをはずし（40頁参照）、損傷の有無を調べてください。損傷があった場合修理しないで再始動すると、損傷のある部品が飛び出すなどして大ケガをするおそれがあります。
- 過労による事故防止のため、長時間連続の作業をせず途中休憩を取ってください。
- エンジンをかけたまま本機を芝の上に放置しないでください。マフラーの熱で芝をこがしてしまうばかりでなく、誤って操作されると思わぬ事故の原因となることがあります。

●作業が終わったら

- 各部の点検・調整・清掃を行うときは、エンジンを停止し、各部が十分に冷えてから行ってください。
- 長期保管前には、燃料タンク内の燃料とキャブレターの燃料を抜き取り本機を火気のないところに保管してください。また抜いた燃料は引火しやすく火災や爆発の危険があります。所定の燃料タンクなどに入れ、保管してください。
- 車への積み降しは、必ずアユミ板を使用しゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。
- 運搬時には、転倒や落下しないよう確実に固定してください。また燃料を抜いてください。

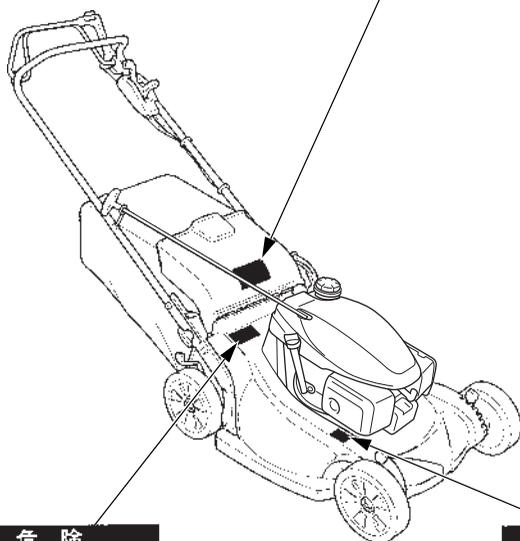
安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべてお読みになってからご使用ください。

ラベルは、はっきりと見えるようにきれいにしておいてください。

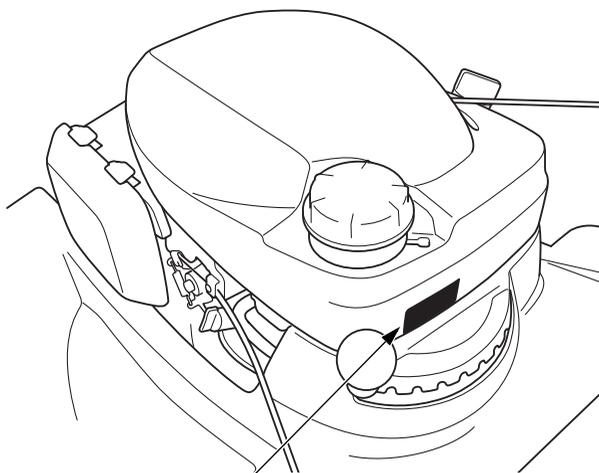
本機に貼ってあるラベルの破れ、紛失または汚れなどでラベルが読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものに貼り替えてください。ラベルの貼り替えについては、お買いあげ販売店へお問い合わせください。

警告	
	<p>死傷事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 刈刃で手や足を切ることがあるので<ul style="list-style-type: none">● 刈刃カバーには 手足を近づけないこと。● 放出カバーを開ける時には エンジンを停止すること。■ 放出物でケガをするおそれがあるので、<ul style="list-style-type: none">● 芝刈り作業前に芝地を点検し 石や異物を取り除くこと。● 人や動物を近づけないこと。● 目の保護具を着用すること。



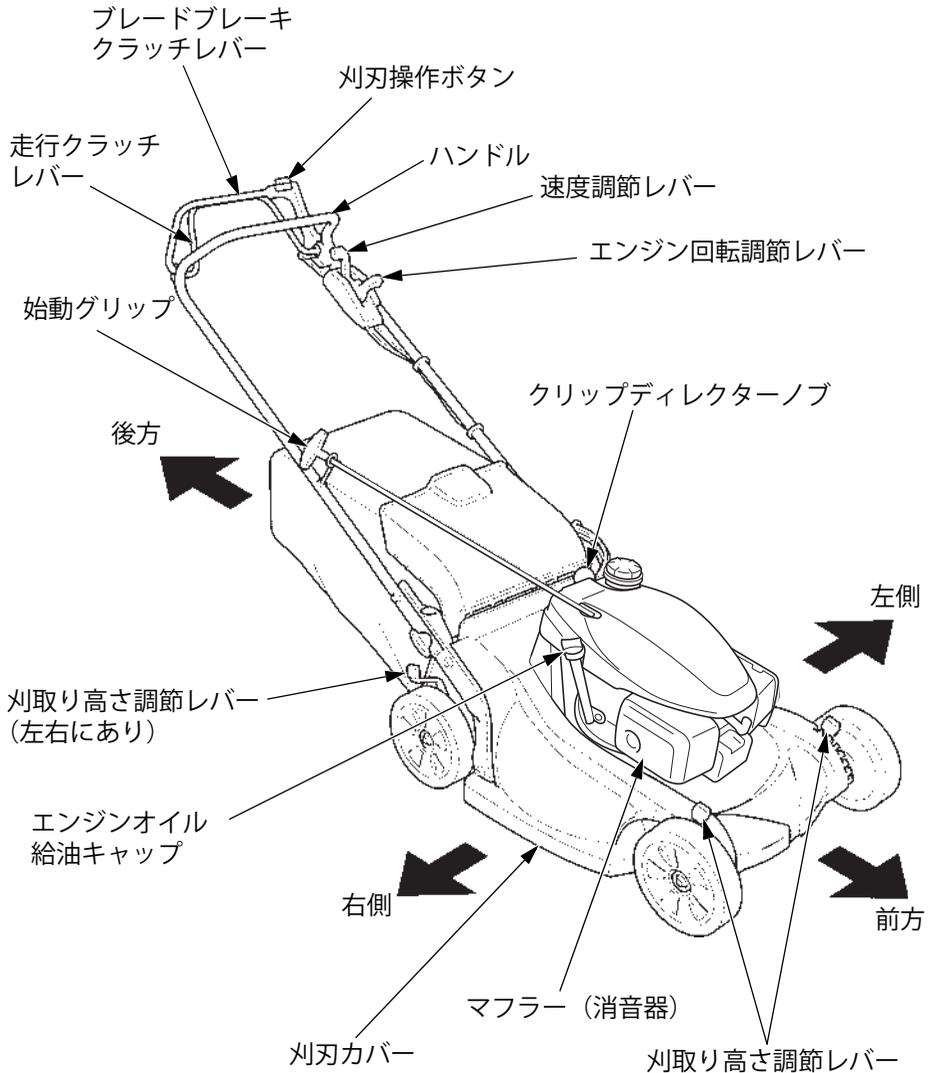
危険	
	<p>回転している刃にふれると、死傷することがあるので、近づかないこと。</p>

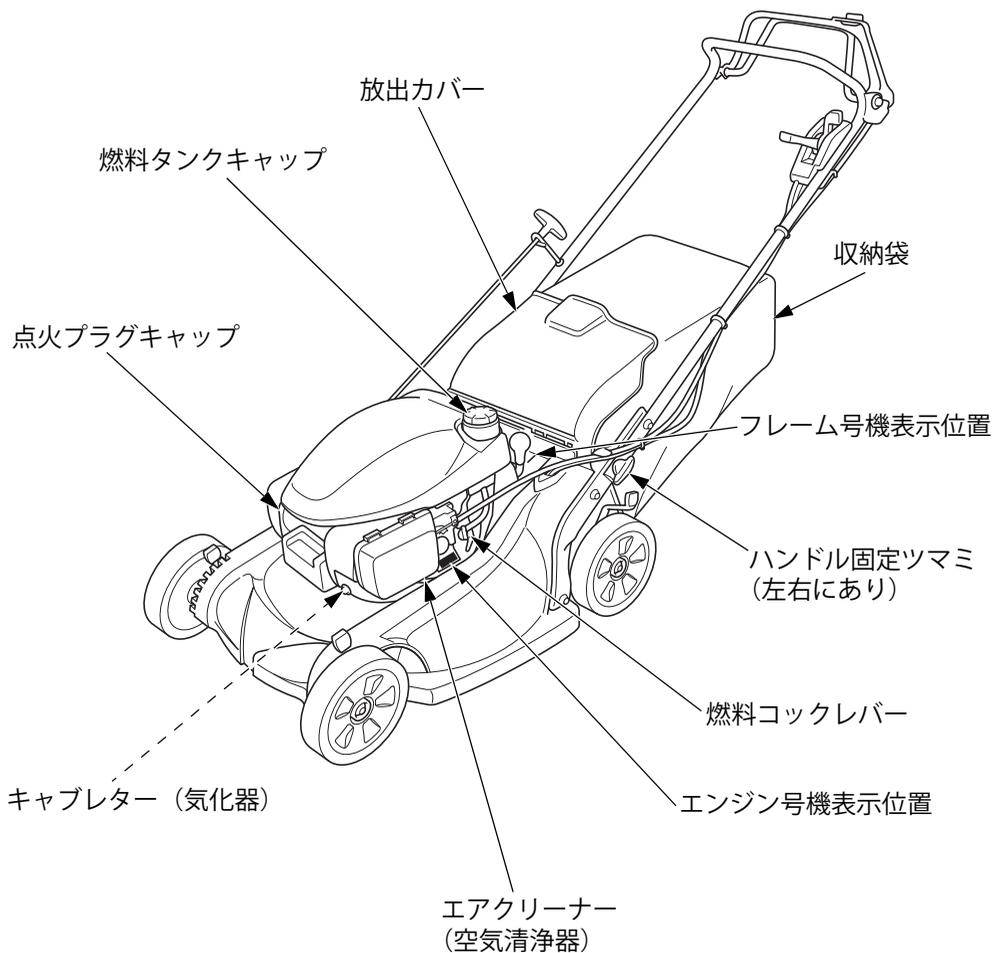
注意	
	<p>ヤケドをするのでマフラーにふれないこと。</p>



  火気 厳禁	警告 火災や爆発により死傷 するおそれがあるので、 ●給油時にはエンジンを停止 すること。 ●給油口に火を近づけないこと。
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------

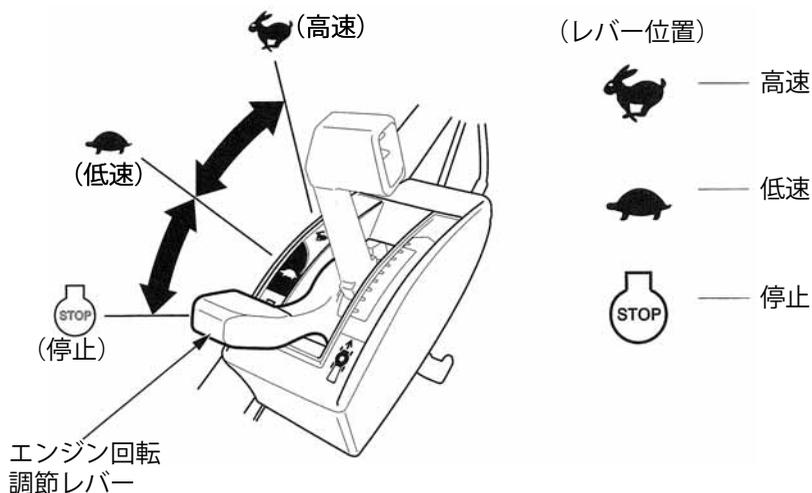
各部の名称と取扱いをおぼえましょう





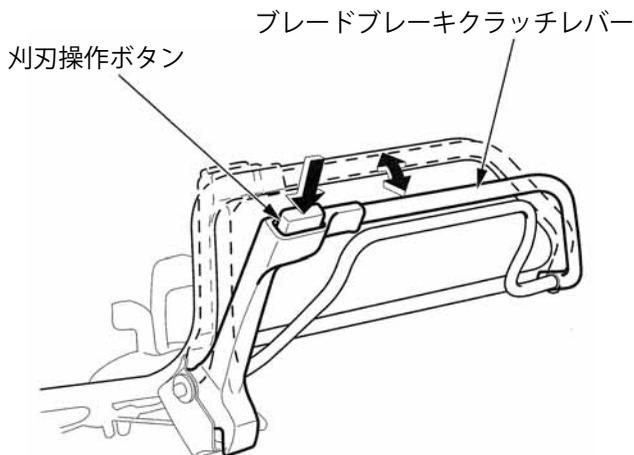
エンジン回転調節レバー

エンジン回転を調節するときに操作します。
エンジン始動時、運転中、停止時に操作します。



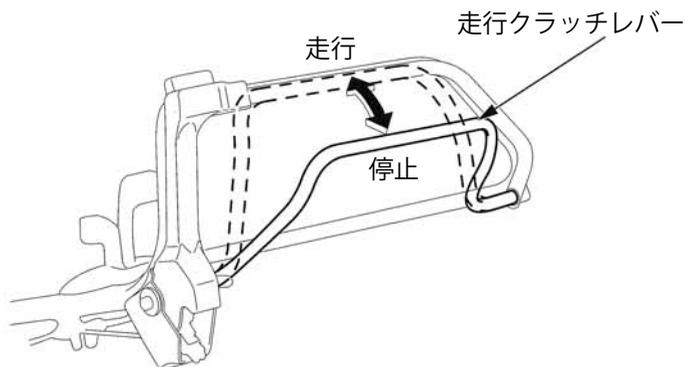
ブレードブレーキクラッチレバー

刃を回転、停止させるときに操作します。
刃操作ボタンを押しながらブレードブレーキクラッチレバーを握ると
刃が回転し、レバーを放すと刃は停止します。



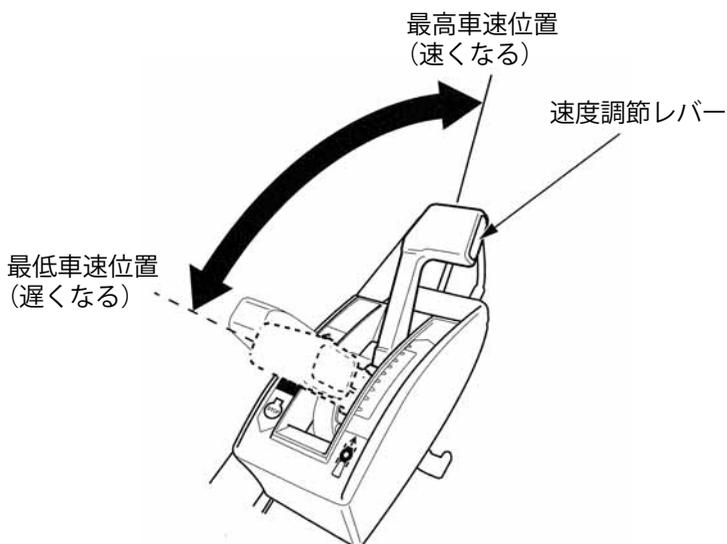
走行クラッチレバー

走行クラッチレバーを握ると走行し、放すと停止します。



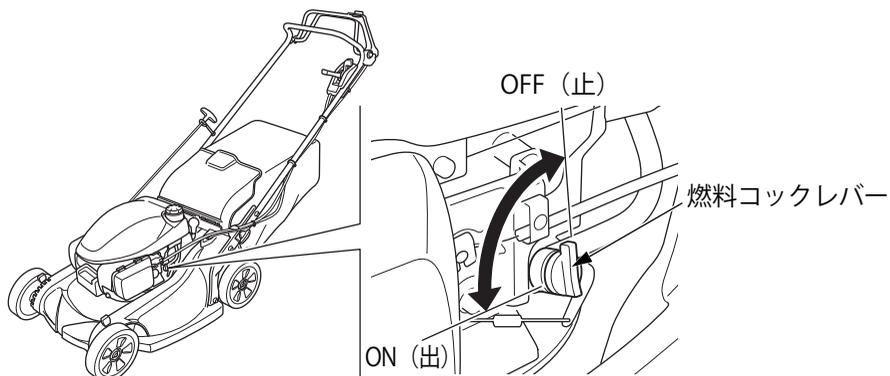
速度調節レバー

走行速度を調節するときに操作します。(30 頁参照)



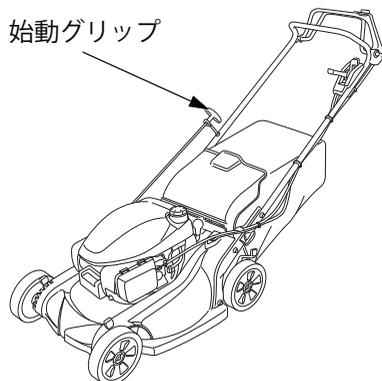
燃料コックレバー

燃料タンクからキャブレターまでの燃料通路を開閉するときに操作します。操作は確実に“OFF”（止）、“ON”（出）の位置に合わせてください。



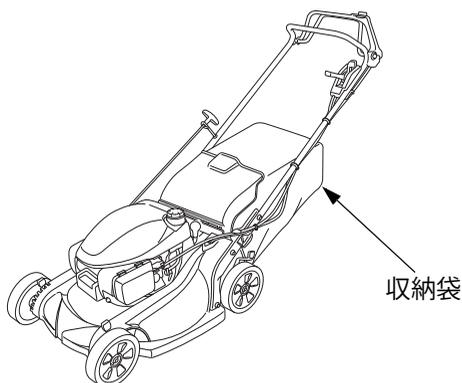
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



収納袋

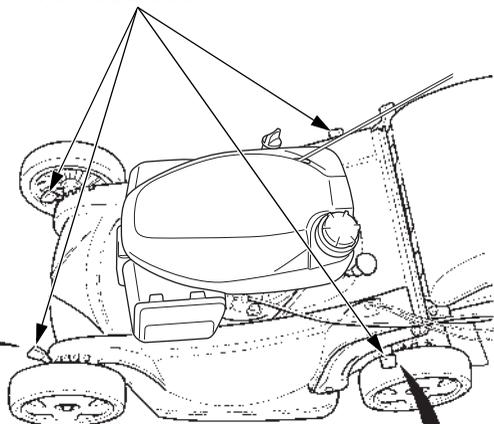
刈取った芝を収納する袋です。



刈取り高さ調節レバー

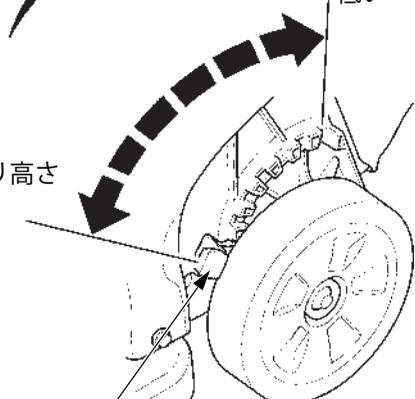
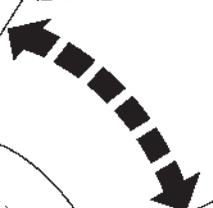
芝の刈取り高さを調節するときに操作します。レバーを操作して位置を変えることにより7段階に刈取り高さを調節できます。(26頁参照)

刈取り高さ調節レバー



刈取り高さ
低い

刈取り高さ
低い



刈取り高さ
高い

刈取り高さ
高い

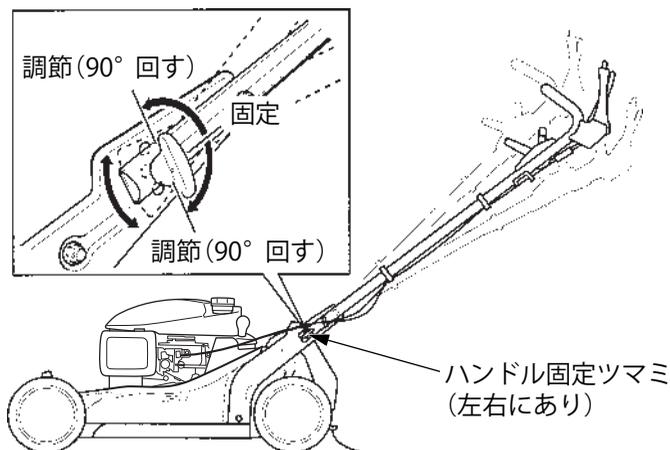
刈取り高さ調節レバー

刈取り高さ調節レバー

ハンドル固定ツマミ

ハンドル高さの調節および保管時などハンドルを折りたたむときに操作します。

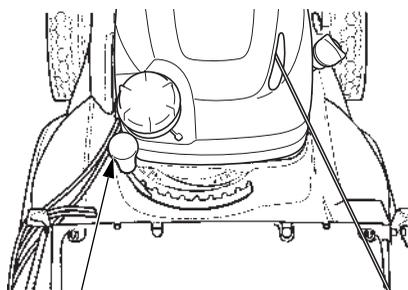
ハンドル高さの調節は3段階にでき、左右のハンドル固定ツマミを90°回して変更します。調節後、ハンドル固定ツマミを“固定”の向きにします。ハンドルの折りたたみかたは、46頁を参照してください。



クリップディレクターノブ

クリップディレクターノブは、刈取った芝の処理で収納とマルチングとの割合を変更するときには操作します。

- 操作は、クリップディレクターノブを押し下げながら移動し、調節溝に合わせて行います。
- 芝の処理割合は10段階に調節できます。



クリップディレクターノブ

マルチングとは：

刈取った芝を刈取り面へ戻すことです。
(マルチングを行う場合は必ず33頁参照)

作業前に点検、調整をしましょう

⚠ 警告

- 点検は平坦な場所で本機を水平にしてエンジンを止め、誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップをはずしてください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと本機を損傷するばかりでなく作業員や付近にいる人に大ケガをさせるおそれがあります。
- 点検整備や保管時に本機が傾く可能性がある場合には、燃料漏れを防ぐために燃料コックレバーを“OFF”（止）の位置に合わせてください。漏れた燃料が引火することがあります。

エンジンの周りや下側に燃料、オイルの漏れがないことを確認してください。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- 本機のまわり ……………燃料の量（17 頁参照）、エンジンオイルの量（19 頁参照）が規定量はいっていること。
燃料漏れ、オイルの漏れがないこと。
各ボルト、ナットにゆるみがないこと。
ハンドル固定ツマミのピンが確実に穴に入っていること。
配線、ケーブル類の被覆の破れや切れがないこと。はさまりがないこと。
エンジンまわりのゴミ、枯れ草などがいないこと。
- レバーの作動 ……………レバーの遊び量（41～43 頁参照）が規定通りであること。
引っかかりがなくスムーズに作動すること。
- 刃の状態 ……………刃締付けボルトにゆるみがないこと。
刃に割れ、欠損、曲がり、摩耗がないこと。
- エンジンの始動、停止 ……エンジン始動時および運転中に異音がないこと。
エンジンが確実に停止すること。
- その他異常を感じたら、ただちにお買いあげ販売店またはサービス店にお申しつけください。

燃料の点検

⚠ 警告

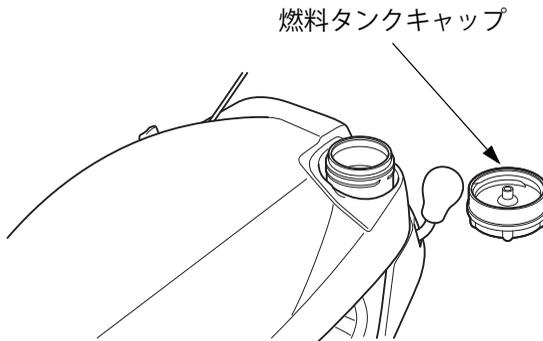
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

ガソリンを補給するときは

- ・ エンジンを停止してください。
- ・ 換気の良い場所で行ってください。
- ・ 火気を近づけないでください。
- ・ 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しヤケドを負うおそれがあります。
本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- ・ ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。
- ・ ガソリンは注入口の口元まで入れず給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内のガソリンが燃料タンクキャップからにじみ出ることがあります。

《点 検》

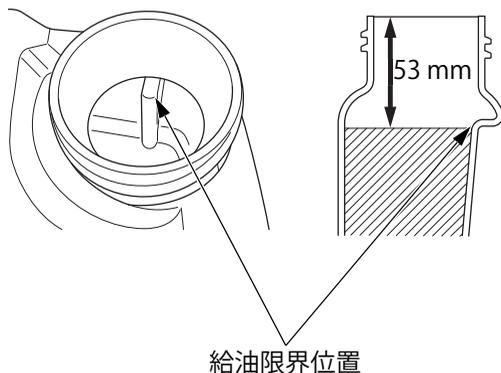
燃料タンクキャップを外し、燃料があることを確認します。
少ない場合は補給してください。



《補給》

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

- 燃料タンクキャップを外し、給油限界位置を超えないように補給します。
- 給油後、燃料タンクキャップを確実に締付けてください。



取扱いのポイント

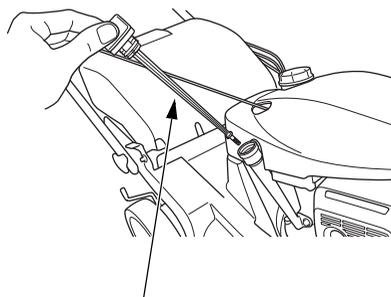
- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- ガソリンは自然に劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

エンジンオイルの点検

《点 検》

エンジンオイル給油キャップを外し、ゲージ部のオイルをふき取ります。キャップを締込まずに、キャップのネジの部分が給油口に当たった位置でキャップを抜取り、オイル量を確認してください。

油面が下限を下まわっているときは、上限までオイルを補給してください。汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換方法は37頁参照)



エンジンオイル給油キャップ/
レベルゲージ



《補 給》

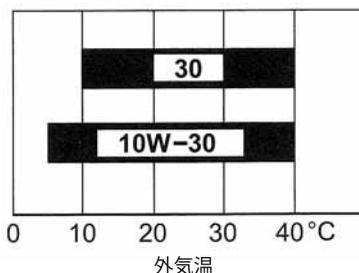
- エンジンオイル給油キャップを外し、新しいオイルを上限以内まで補給します。

推奨オイル

Honda 純正ウルトラ U 汎用
(SAE10W-30)

または API 分類 SE 級以上の
SAE10W-30 オイルをご使用
ください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを
表にもとづきお使いください。



取扱いのポイント

エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エアクリナー（空気清浄器）の点検

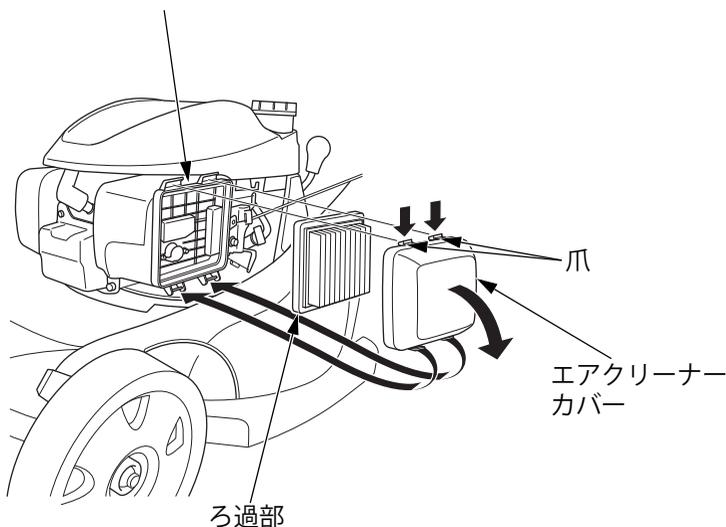
《点 検》

1. エアクリナーカバーの爪を押し下げて、エアクリナーハウジングからエアクリナーカバーを外します。
2. エアクリナーハウジングからろ過部を取り外し、ろ過部の汚れを確認します。
3. 汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃または交換を行ってください。（清掃・交換方法は 39 頁参照）

取扱いのポイント

- エアクリナーカバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エアクリナーカバーやろ過部を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

エアクリナーハウジング



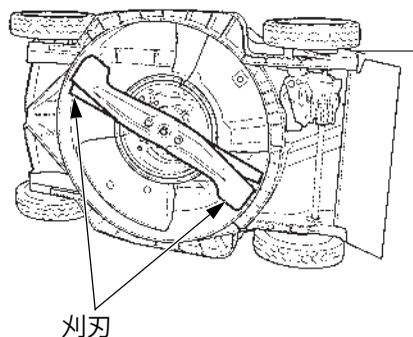
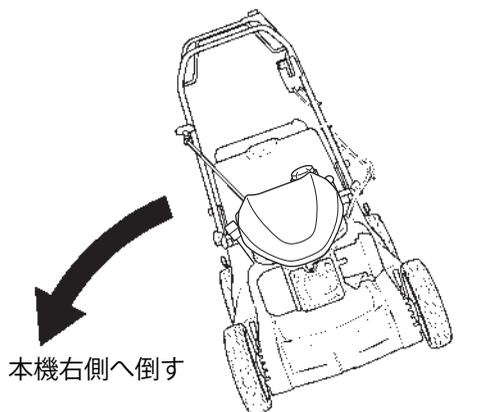
刈刃の点検

⚠ 警告

- 作業を安全に行うために、刈刃の作業前点検を行ってください。刈刃のゆるみ、摩耗、割れ、曲がりなどを放置すると、刈刃が折損して飛び出し、作業員や付近にいる人に当たるなどして重大な人身事故を招くおそれがあります。交換するときはお買いあげ販売店またはサービス店にご相談ください。
- 刈刃の点検をするときは、エンジンを停止し点火プラグキャップをはずしてから厚手の手袋を装着して行ってください。刈刃でケガをするおそれがあります。
- 本機を左側（キャブレター側）に倒さないでください。ガソリンがこぼれ危険です。

《点 検》

1. エンジンを停止し、点火プラグキャップを外します。
2. 燃料コックレバーを“OFF”（止）にし、本機を右側（マフラー側）に倒します。



- 刈刃に芝生がからまっている場合は、取除いてください。

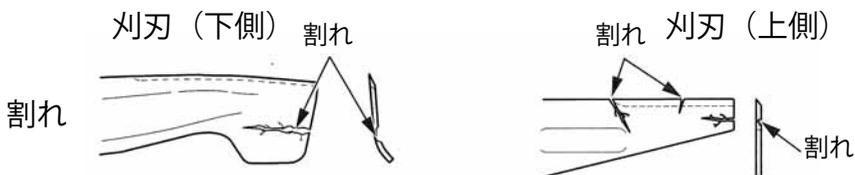
取扱いのポイント

傾斜させたまま放置しないでください。始動性が悪くなる場合があります。

3. 刃先に割れ、欠損、曲がり、摩耗がないことを確認します。



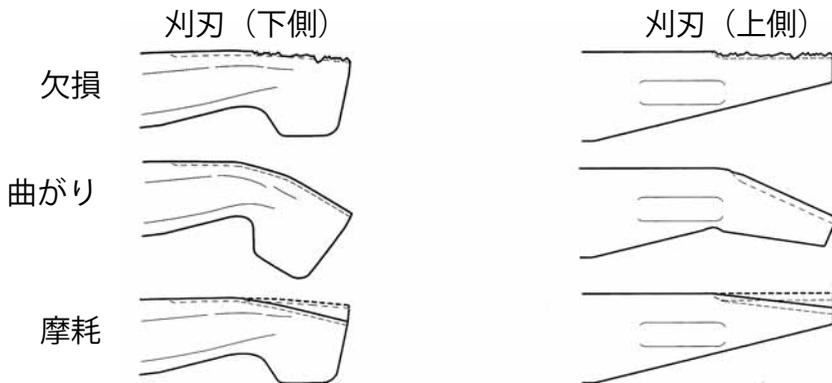
- 刃先が摩耗して丸くなってきたらお買いあげ販売店またはサービス店で研いてください。
- 下図のように異常な状態になっていたらお買いあげ販売店またはサービス店で交換してください



⚠ 警告

特にリフト部に割れが発生すると、リフト部が折損して飛び出すおそれがあるので使用しないでください。

交
換



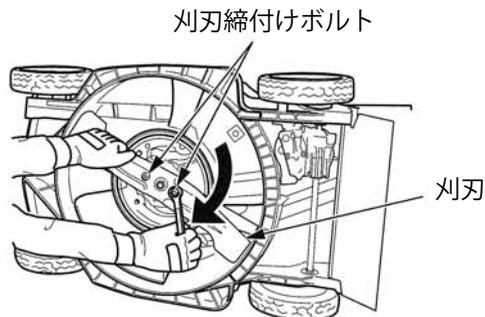
- 乾燥した土や砂を含んだ場所で使用すると刃先の摩耗が早いいため頻繁に確認してください。

刈刃締付けボルトの点検

⚠ 警告

刈刃締付けボルトの点検をするときは、エンジンを停止し点火プラグキャップを外してから厚手の手袋を装着して行ってください。

- 刈刃締付けボルトがゆるんでいないことを確認します。



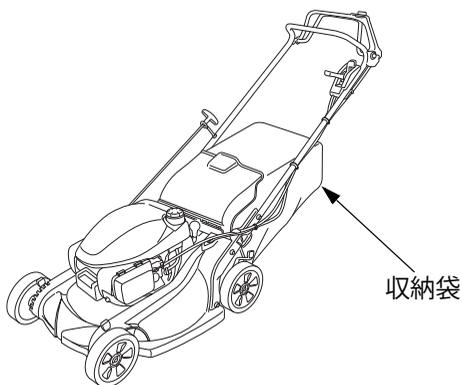
収納袋の点検

⚠ 警告

収納袋は布製です。すり切れ、破れ、縫い目のほころびなど収納袋が損傷している場合は新しいものに交換してください。石などの異物が飛散しケガをするおそれがあります。

《点 検》

1. 目詰まりがないことを確認します。
収納袋が目詰まりしていると収納能力が落ちます。水洗いし十分に乾燥してから使用してください。
2. すり切れ、破れ、縫い目のほころびなどがなくことを確認します。
3. 確実にセットされていることを確認します。
(脱着方法は 34 頁参照)



- 各部の点検が終わったら、点火プラグキャップを元通りに取付けてください。

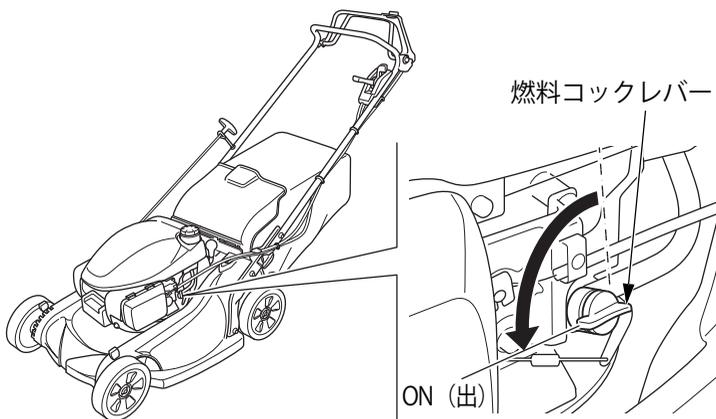
エンジンのかけかた

- 刈取り高さの調節（26 頁参照）及び刈取り芝の処理方法選択（27 頁参照）を行う場合、エンジン始動の前に行ってください。

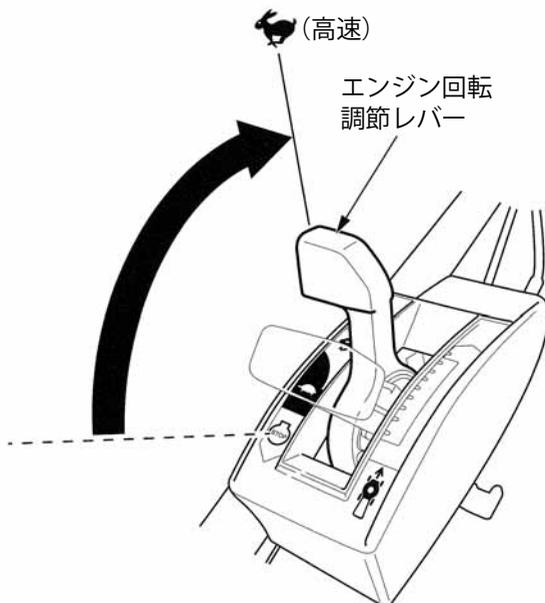
⚠ 警告

屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

1. 燃料コックレバーを“ON”（出）に合わせます。



2. エンジン回転調節レバーを“”（高速）の位置に合わせます。



- 3.左手でハンドルを握り、右手で始動グリップをゆっくり引いて重くなる位置をさがし、矢印の方向に強く引っ張ります。始動グリップは手を添えて静かに戻してください。

取扱いのポイント

始動グリップを引き上げた位置から手を放さないでください。グリップや回りの部品を破損することがあります。また運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響を与えます。

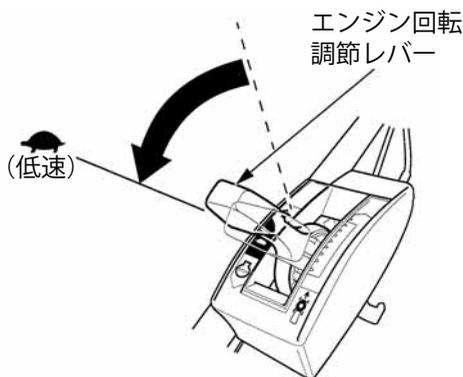
- エンジンの始動は、本機が安定する平坦な場所で行ってください。
- 始動グリップを引くときは、後方に人がいないことを確認してください。



4. 2～3分間暖機運転を行います。

エンジン回転が安定したら、エンジン回転調節レバーを“”（低速）にします。

- 暖機運転を行うことは、エンジン各部にオイルを行きわたらせ、エンジンの寿命を長持ちさせます。



取扱いのポイント

芝の上での暖機運転はさけてください。マフラーなどの熱により芝が変色することがあります。

運 転 操 作 の し か た

芝刈り作業をする前に必ず「安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう」の項目を良くお読みになり芝刈り作業をしてください。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店またはサービス店にお申しつけください。

1 刈取り高さの調節

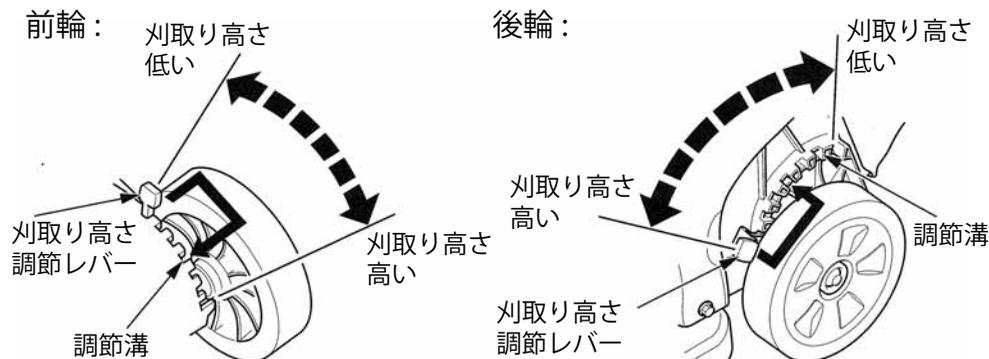
⚠ 警告

刈取り高さの調節をするときは、エンジンを停止し、各部の回転が止まっていることを確認してください。また誤ってエンジンが始動しないように点火プラグキャップをはずしてください。

刈取り高さ調節レバーにより7段階（約19～101mm）まで調節ができます。調節レバーは前輪、後輪ともに左右両側にあります。

《調 節》

1. 厚手の手袋をし、本機を少し持ち上げてください。
 2. レバーをタイヤ側に引き、調節溝に入れてください。
- 伸びた芝を刈取る場合は最初に刈取り高さを高くして刈取り、次に刈取りたい高さまで低くして刈取ってください。



取扱いのポイント

- ・ 刈取り高さ調節レバーは4輪ともすべて同じ位置にしてください。芝刈機が不安定になったり、仕上がりが不均一になることがあります。
 - ・ 確実に調節レバーが溝とかみ合っていることを確認してください。
 - ・ 芝地の条件により、刈取り高さは多少変化することがあります。
- 刈取り高さの調節が終わったら、点火プラグキャップを元通りに取付けてください。

2 刈取り芝の処理方法選択

刈取った芝の処理方法は、3通りあり選択できます。

- ・ 収納：刈取った芝を収納袋に収納します。
- ・ 放出：刈取った芝を後方へ排出します。
- ・ マルチング：刈取った芝を刈取り面へ戻します。（「収納」との割合を9段階に調整できます。）

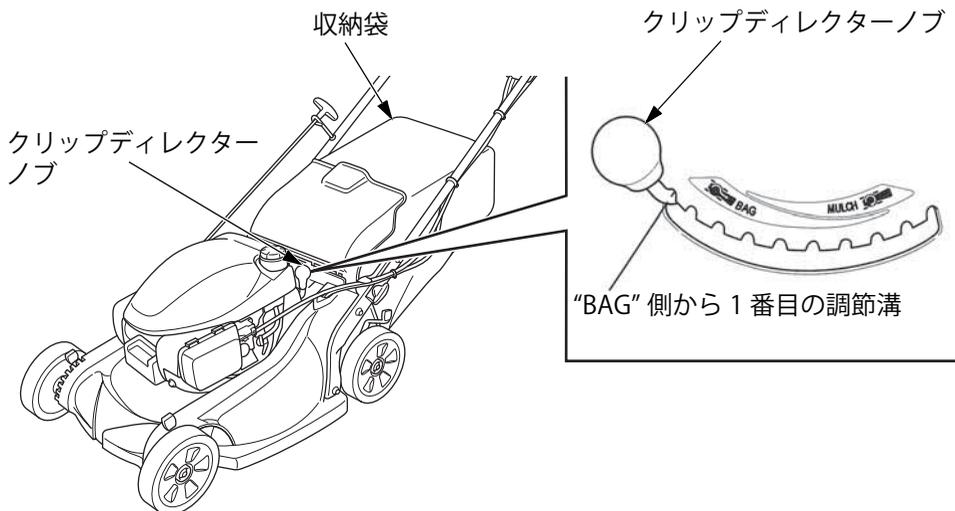
選択した刈取り芝の処理方法により、収納袋の着脱およびクリップディレクターノブの操作を行ってください。

⚠ 注意

- ・ クリップディレクタードアの安全確認や清掃をする前は常にエンジンを切り、点火プラグキャップを外してください。回転する刈刃との接触を防ぎ、放出口に物が投げ込まれるのを防ぐためです。
- ・ クリップディレクタードアの上部に過度の芝生が溜りますと、左右のノブを移動させる際に高い抵抗を感じます。故障の原因となりますので取除いてください。

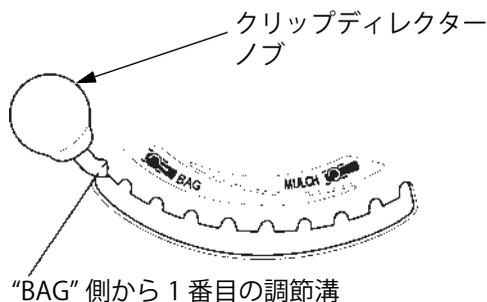
《 収 納 》

1. 収納袋を取付けます。（取付け方は 34 頁参照）
2. クリップディレクターノブを“BAG”側から 1 番目の調節溝に合わせます。（操作は 15 頁参照）



《放 出》

1. 収納袋を取外します。(取外し方は 34 頁参照)
2. クリップディレクターノブを “BAG” 側から 1 番目の調節溝に合わせます。(操作は 15 頁参照)



《マルチング》

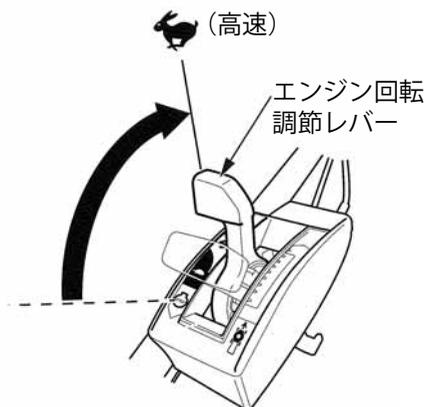
1. 収納袋を取付けます。(取付け方は 34 頁参照)
2. クリップディレクターノブを操作し、マルチングの割合を調節します。(操作は 15 頁参照)
クリップディレクターノブは 10 段階に操作でき、マルチングの割合は 9 段階に調節できます。

3 エンジン始動

エンジン始動要領に従ってエンジンを始動します。(24 頁参照)

4 運転操作

1. エンジン回転調節レバー
エンジン回転調節レバーを “” (高速) にします。



⚠ 注意

本機からはなれる場合は必ずエンジン回転調節レバーを “” (停止) 位置にしてください。

2. ブレードブレーキクラッチレバー

ブレードブレーキクラッチレバーは、刈刃操作ボタンを押しながら前方へ動かすと、刈刃が回転します。さらに、ブレードブレーキクラッチレバーをハンドルと一緒に握り続けると、刈刃が回転し続けます。

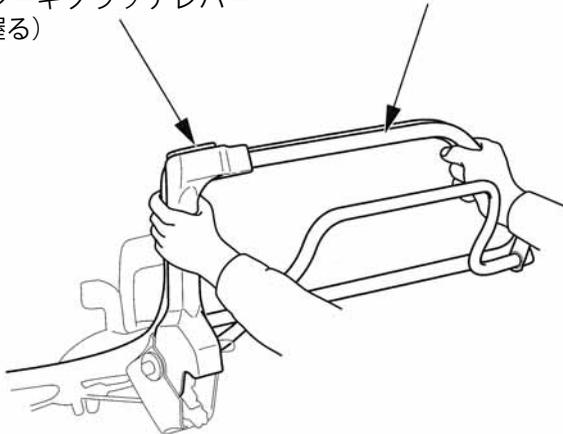
(刈刃が回転開始後、刈刃操作ボタンから手を離しても刈刃は回転し続けます。)

ブレードブレーキクラッチレバーから手を放すと刈刃の回転が止まります。

- ブレードブレーキクラッチレバーを握った状態で、刈刃操作ボタンを押しても刈刃は回転しません。
- 芝の伸びているところで急に刈刃を回転させると、エンジンが止まることがあります。このようなときはハンドルを押し下げ前輪を少し浮かせるか、芝高さの低いところでレバーを握り刈刃を回転させてください。

刈刃操作ボタン
(押しながらブレード
ブレーキクラッチレバー
を握る)

ブレードブレーキクラッチレバー



取扱いのポイント

- ブレードブレーキクラッチレバーはしっかり握ってください。半クラッチ（レバーをしっかりと握っていない）状態で使用すると故障の原因となります。
- 刈刃の回転に異常がある場合（エンジンは運転中なのに刈刃が回転しない、または回転が遅い）は、ブレードブレーキクラッチケーブルの遊びを点検し、必要があれば調整してください。（調整方法は41頁参照）

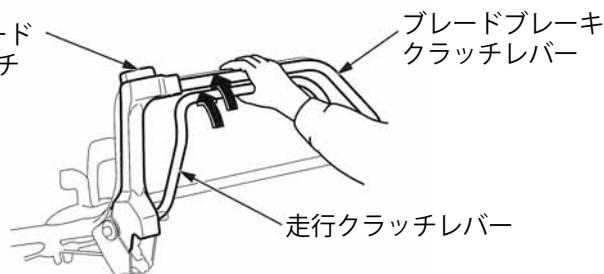
3. 走行クラッチレバー

走行クラッチレバーを前方へ動かすと、本機が自走します。さらに、走行クラッチレバーをハンドルおよびブレードブレーキクラッチレバーと一緒に握り続けると、自走し続けます。走行クラッチレバーを放すと自走を止めます。

《刈取りをせず自走移動》

刈取りをせずに自走移動する場合、刈刃操作ボタンを押さずにブレードブレーキクラッチレバーを操作してください。この状態で、走行クラッチレバーを操作すると、刈取りをせず自走移動します。

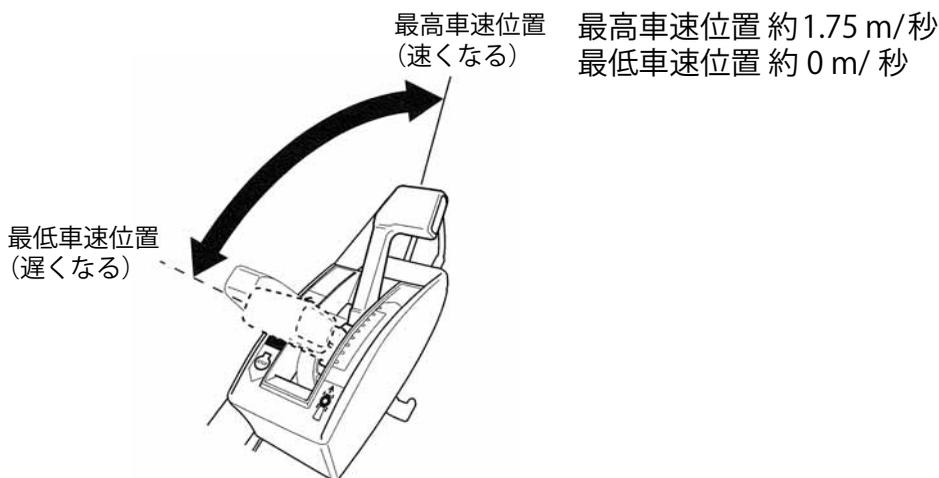
刈刃操作ボタン
(押さずにブレード
ブレーキクラッチ
レバーを握る)



4. 速度調節レバー

芝の状態、作業者の歩行速度に合わせて操作してください。

- 無段変速（細かいノッチが付いています）で、走行中の速度調節も可能です。



5 刈取り作業

刈取り作業は、《自走刈り》と《手押し刈り》とを選択できます。《自走刈り》は下記、《手押し刈り》は 32 頁を参照してください。
《斜面》および《起伏》での刈取り作業は、32 頁を参照してください。

⚠ 警告

作業中に本機または刈刃が障害物に当たったときは、エンジンを停止し点火プラグキャップをはずしてから、本機に損傷がないことを確認してください。そのまま作業を続けると損傷した部品が飛散し大ケガをするおそれがあります。損傷した部品を交換するときは、お買いあげ販売店またはサービス店にご相談ください。

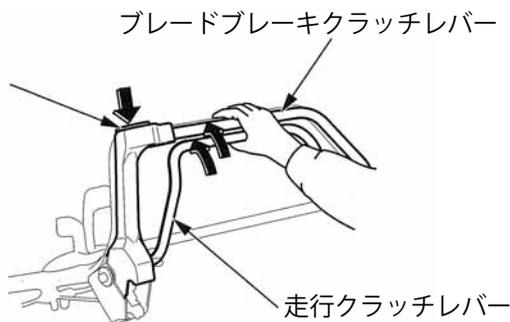
《自走刈り》

刈刃操作ボタンを押しながらブレードブレーキクラッチレバーを握ります。刈刃が回転しエンジンの回転が十分あがったところで走行クラッチレバーを握り芝刈り作業を行います。

⚠ 注意

作業中はハンドルをしっかりと握り、足元に十分注意し、本機の色に合わせ行ってください。芝は滑りやすく転倒するおそれがあります。

刈刃操作ボタン
(押しながらブレード
ブレーキクラッチ
レバーを握る)



取扱いのポイント

エンジン回転が低いまま作業すると、エンジンが止まったり仕上がりが不均一になることがあります。

- 方向転換は、走行クラッチレバー、およびブレードブレーキクラッチレバーを放し、ハンドルを押し下げながら前輪を少し浮かして行います。
- 速度調節は、芝刈り作業を中断することなく行うことができます。作業内容に合わせて速度調節レバーを調節してください。(30 頁参照)

《手押し刈り》

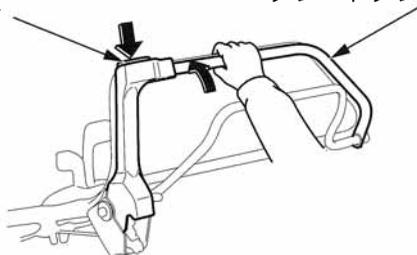
⚠ 注意

作業中はハンドルをしっかり握り、足元に十分注意し、走らないで行ってください。芝は滑りやすく転倒するおそれがあります。

刈刃操作ボタンを押しながらブレードブレーキクラッチレバーを握ります。刈刃が回転しエンジンの回転が十分に上がったから本機を手で押して作業します。（このとき走行クラッチレバーは使用しません）

刈刃操作ボタン
(押しながらブレード
ブレーキクラッチ
レバーを握る)

ブレードブレーキクラッチレバー



⚠ 警告

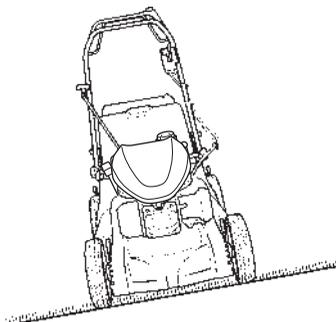
急な斜面や起伏の激しいところでは作業しないでください。斜面や起伏のあるところでは本機が安定せず転倒するおそれがあります。

《斜 面》

- ・ 斜面での芝刈りは上下方向ではなく、横方向（等高線方向）に行ってください。
- ・ 斜面上での方向転換は十分注意を払ってください。
- ・ 急な斜面では本機を使用しないでください。

《起 伏》

- ・ 起伏の多い所での芝刈りは十分に速度を落とし、足元に注意してハンドルをしっかり握り作業してください。



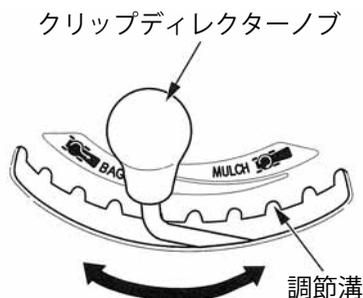
《マルチングについて》

本機はクリップディレクターノブを調節することにより、マルチング（刈取った芝を刈取り面へ戻す）を行うことができます。

クリップディレクターノブは 10 段階に操作でき、マルチングの割合は 9 段階に調節できます。

クリップディレクターノブを“BAG”側から1番目の調節溝に合わせると、マルチングはできません。

1. 収納袋を取付けます。(34 頁参照)
 2. クリップディレクターノブを押し下げ、刈取り方法に合った調節溝へ入れます。
 3. テストで少しだけ芝を刈ります。(31 頁参照)
 4. 刈取り面の仕上りを確認してください。
- 刈取り面の仕上りは、マルチングした芝が芝生の間からあふれないようにしてください。



仕上り良い



仕上り悪い



5. 適切な刈取り面の仕上りになるまで、クリップディレクターノブを調節してください。

- 正しいマルチングの仕方がわからない場合は、ノブを“BAG”側から1番目の調節溝に合わせて刈取りを始めてください。徐々にノブを“MULCH”側へ調節し、必要な仕上りになるまで調節をくり返してください。

取扱いのポイント

マルチング作業は、芝生の種類や密度、作業状況によっては、芝生の育成に悪影響をおよぼすおそれがあります。その場合は必ず“BAG”側から1番目の調節溝に合わせて刈取りを行ってください。

6 収納袋の脱着

⚠ 警告

収納袋の脱着は、必ずエンジンを停止してから行ってください。刈刃カバー内の石などの異物が飛び出し大ケガをするおそれがあります。

《取外し方》

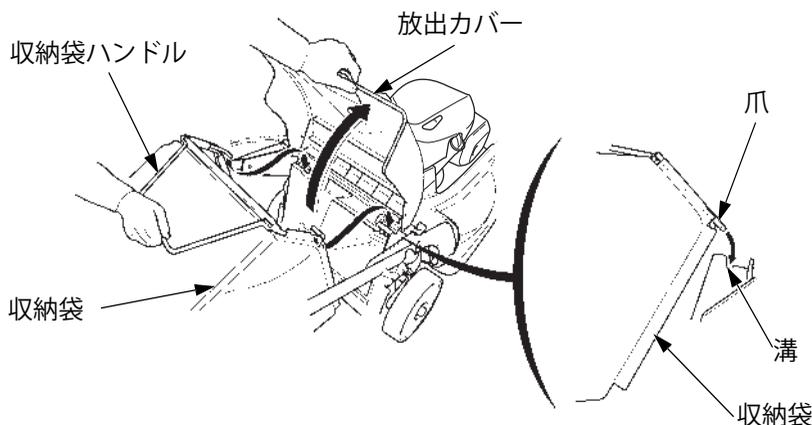
1. 本機の放出カバーを開きます。
2. 収納袋ハンドルを持ち上げ、収納袋の先端の爪を本機の溝から外し、後方に引いて取外します。

《取付け方》

1. 本機の放出カバーを開きます。
2. 収納袋のフレーム先端の爪を本機の溝に合わせて取付けます。

⚠ 警告

- 収納袋が確実に取付けられていることを確認してください。作業中に外れると放出物によってケガをするおそれがあります。
- 収納袋は布製です。すり切れ、破れ、縫い目のほころびなど収納袋が損傷しているときは新しいものに交換してください。石などの異物が飛散しケガをするおそれがあります。



取扱いのポイント

収納袋が目詰まりしていると収納能力が落ちます。水洗いをし十分に乾燥させて使用してください。

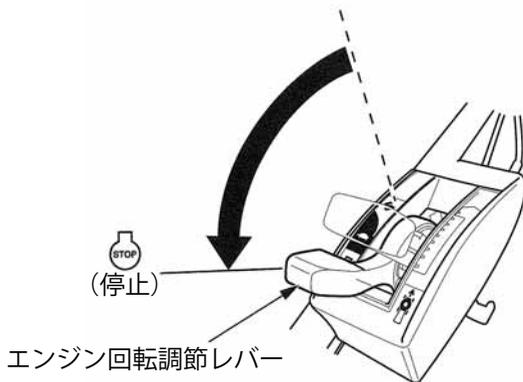
エ ン ジ ン の と め か た

緊急停止の場合

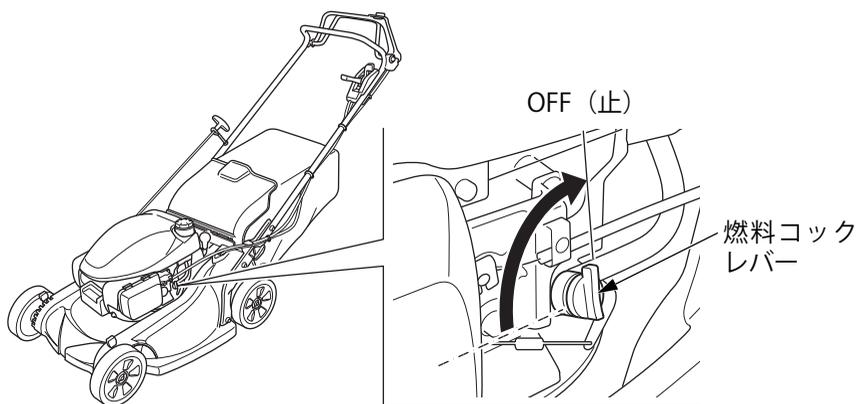
エンジン回転調節レバーを“STOP”（停止）にします。

通常停止の場合

1. 走行クラッチレバーとブレードブレーキクラッチレバーを放します。
2. エンジン回転調節レバーを“STOP”（停止）にします。



3. 燃料コックレバーを“OFF”（止）に合わせます。



定期手入れを行いましょ

定期点検整備項目

お買いあげいただきました芝刈機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょ。

点検項目	点検時期 (3)	作業前 点検	1ヶ月月	3ヶ月毎	6ヶ月毎	1年毎	150時間	2年毎	参照頁
			または初回 5時間 運転目	または 25時間 運転毎	または 50時間 運転毎	または 100時間 運転毎	運転毎	または 250時間 運転毎	
エンジンオイル	点検	○							19
	交換		○		○				37
エアクリーナー	点検	○							20
	清掃			○ (1)					39
	交換							○	39
刈刃締付けボルトの締付け	点検	○							23
刈刃ホルダー締付けボルトの締付け	点検					○ (2)			—
刈刃の状態	点検	○							21
収納袋	点検	○							23
本機廻りの点検・各部の清掃		○							16
レバーの作動	点検	○							16
エンジンの作動	点検	○							24
点火プラグ	点検・調整					○			40
	交換							○	40
ブレードブレーキクラッチ	点検					○ (2)			—
ブレードブレーキクラッチ ケーブル	点検・調整		○			○			41
走行クラッチケーブル	点検・調整		○		○				42
速度調節レバーケーブル	点検・調整					○ (2)			—
エンジン回転調節ケーブル	点検・調整							○ (2)	—
アイドル回転数	点検・調整					○ (2)			—
吸入・排気弁のすき間	点検・調整						○ (2)		—
燃焼室	清掃	250 時間運転毎 (2) (4)							—
燃料タンク・フィルター	清掃					○ (2)			—
燃料チューブ	点検	2 年毎 (必要なら交換) (2)							—

- (1) ホコリの多い所で使用した場合、エアクリーナーの清掃は 10 時間運転毎または 1 日 1 回行ってください。
- (2) 適切な工具と整備技術を必要としますので、お買い上げ販売店またはサービス店で実施してください。
- (3) 点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
- (4) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。

点 検 ・ 整 備 の し か た

作業を始める前に、作業内容を確認してください。ご自身で実施できない場合、お買い上げ販売店またはサービス店にご相談ください。

⚠ 警告

点検・整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグキャップを外して行ってください。

エンジンオイルの交換

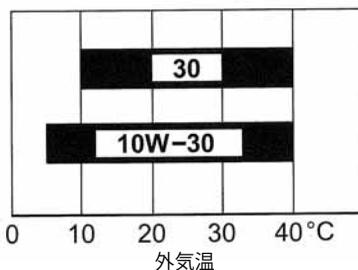
エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《推奨オイル》

Honda 純正 ウルトラ U 汎用 (SAE10W-30) または API 分類 SE 級以上の SAE10W-30 オイルをご使用ください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

《規定量》 0.40 L

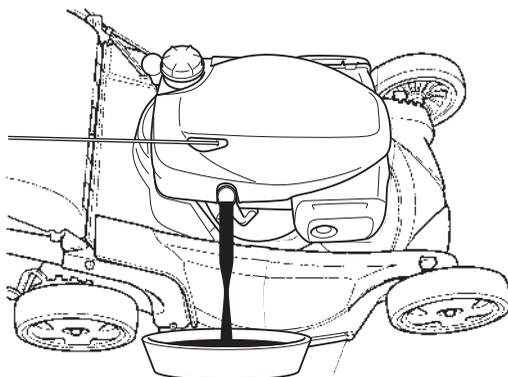


⚠ 注意

エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラーなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドなどをするおそれがあります。

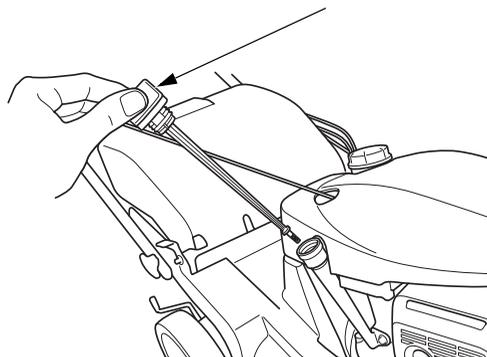
《交 換》

1. エンジン回転調節レバーを “STOP” (停止) の位置にし、点火プラグキャップを外します。
2. 燃料コックレバーを “OFF” (止) にします。
3. エンジンオイル給油キャップを外し、本機を給油キャップ側に傾けオイルを抜きます。

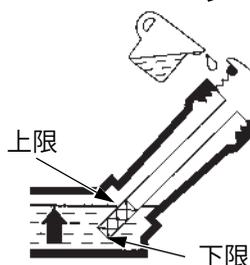


4. エンジンオイルが完全に抜けたら本機を元に戻し水平な場所に置いてください。
5. エンジンオイルを給油キャップのレベルゲージで確認しながら上限まで注入します。給油キャップをねじ込まず差し込んで確認します。(19頁参照)
6. 注入後、エンジンオイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。

エンジンオイル給油キャップ／レベルゲージ



エンジンオイル
給油キャップ／
レベルゲージ



取扱いのポイント

- ・ 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合はオイルをお買いあげになったお店にご相談の上、処理してください。
- ・ オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換をしてください。
- ・ エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

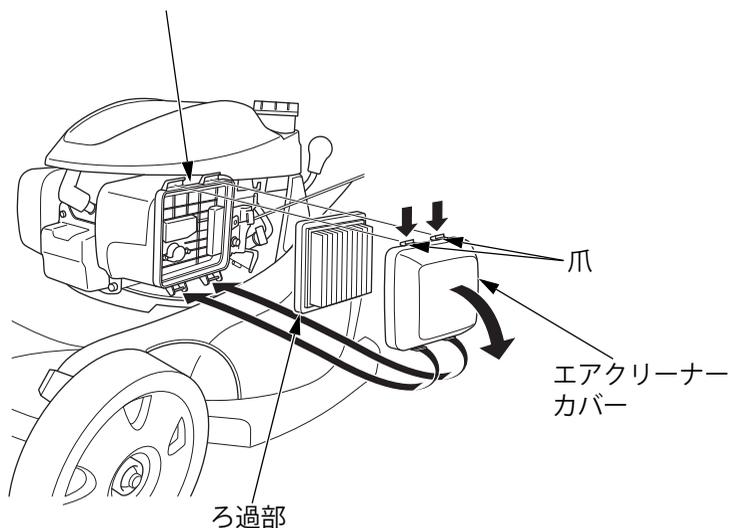
エアクリナー（空気清浄器）の清掃・交換

エアクリナーが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃してください。

《清掃・交換》

1. エアクリナーカバーの爪を押し下げて、エアクリナーハウジングからエアクリナーカバーを取外します。
2. ろ過部は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。

エアクリナーハウジング



取扱いのポイント

- ・エアクリナーカバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- ・エアクリナーカバーやろ過部の組付けを忘れたり、取付けかたが悪いと、ホコリなどが入り、エンジンに悪影響をあたえます。

点火プラグの清掃、調整、交換

点火プラグの清掃、調整、交換は、お買い上げの販売店またはサービス店にご相談ください。

ご自分で作業する場合は以下の手順で行ってください。

⚠️ 注意

エンジン停止直後はマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっており、ヤケドをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

電極が汚れたり、電極のすき間が不相当だと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《清 掃》

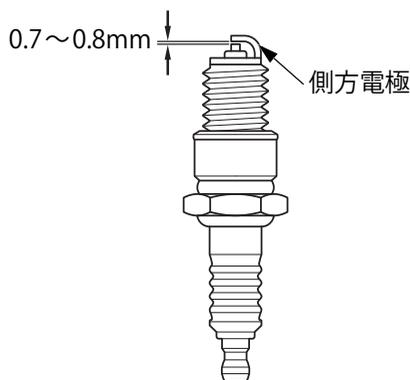
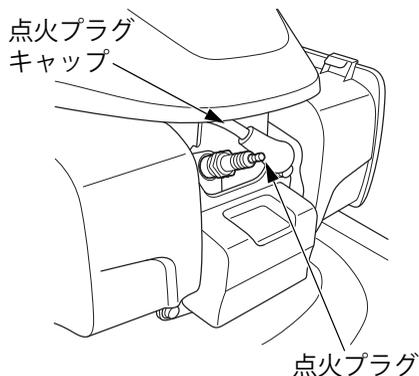
1. 点火プラグキャップを外します。
 2. プラグレンチで点火プラグを取外します。
 3. 点火プラグの清掃はプラグクリーナーを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店またはサービス店をご利用ください。
- プラグクリーナーが無いときは、ワイヤーブラシで汚れを落してください。

《調 整》

- 側方電極をつめ、火花すき間を 0.7 ~ 0.8mm に調整します。

《標準プラグ》

BPR5ES (NGK)



取扱いのポイント

- ・故障の原因となるので標準プラグ以外、使用しないでください。点火プラグの取付けはネジ山を壊さないように指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締込んでください。
- ・点検調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因となります。

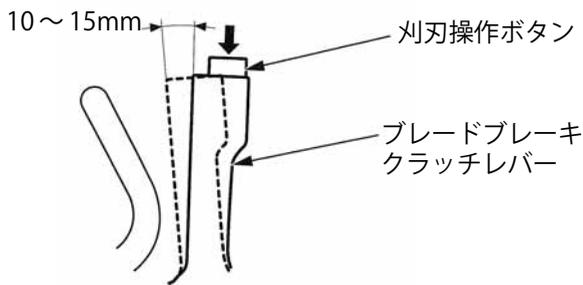
ブレードブレーキクラッチケーブルの点検、調整

ブレードブレーキクラッチケーブルの調整が正しくないと、刈取りができなかったり仕上がりが不均一になります。

《点 検》

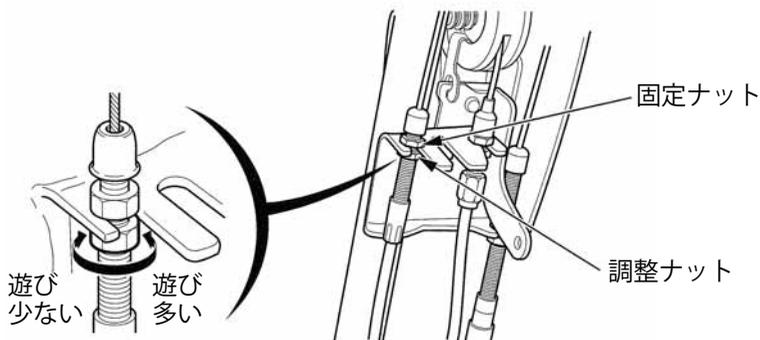
1. ブレードブレーキクラッチレバーの刈刃操作ボタンを押した状態でレバー先端の遊びを確認します。

規定値：10～15mm



《調 整》

1. 調整はブレードブレーキクラッチケーブルの固定ナットをゆるめ、調整ナットを回して行います。



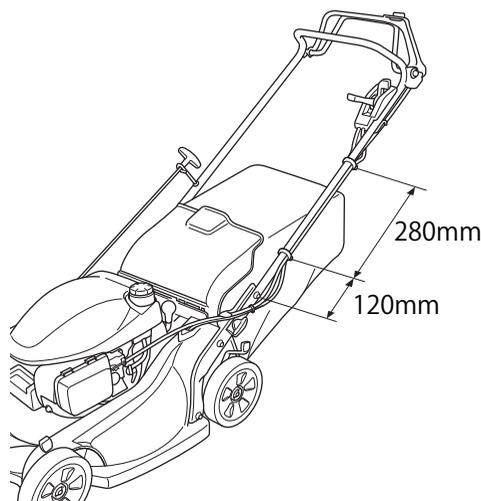
2. 調整後固定ナットを確実に締付けます。
3. エンジンを始動します。刈刃操作ボタンを押してブレードブレーキクラッチレバーを握ると刈刃が回転し、放すと3秒以内に止まることを確認してください。異常がある場合はブレードブレーキクラッチやブレーキの整備が必要です。お買いあげ販売店またはサービス店にお申しつけください。

走行クラッチケーブルの点検、調整

走行クラッチケーブルの調整が正しくないとクラッチがすべり、走行できません。

《点 検》

1. タイストラップが下図の位置にあることを確認し、速度調節レバーを最低車速位置にします。



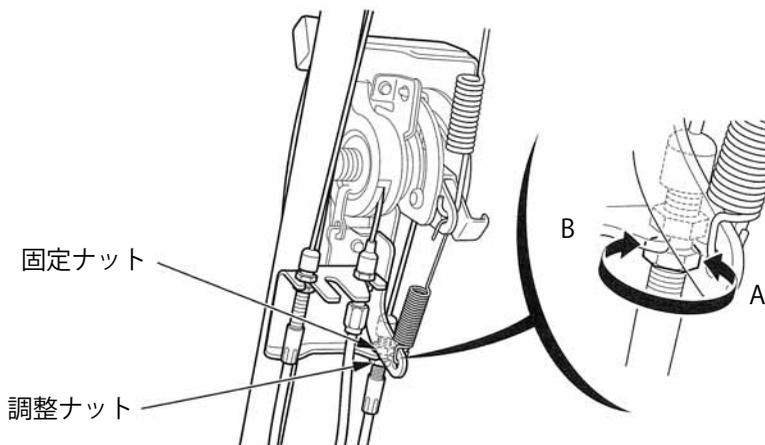
2. エンジンを始動し、エンジン回転調節レバーを “” (高速) の位置にします。走行クラッチレバーを握り、以下の作動を確認します。

- (1) 本機が自走しない。
- (2) 速度調節レバーを一段前に動かしたときに、芝刈機が自走し始める、または非常にゆっくり前に自走する。

上記のように作動しないときは、走行クラッチケーブルの調整をしてください。

《調整》

1. 走行クラッチケーブルの固定ナットをゆるめ、調整ナットを回して行います。
 - ・点検（1）で本機が自走する場合は、調整ナットを A の方向に回して調整します。
 - ・点検（2）で本機が自走しない場合は、調整ナットを B の方向に回して調整します。



2. 固定ナットを確実に締付けます。
3. 調整後、エンジンを始動し走行クラッチレバーが正しく作動することを確認してください。走行クラッチレバーを握ると本機は走行し、放すと止まります。
4. 上記方法で調整しても走行しない場合は、お買いあげ販売店またはサービス店にお申しつけください。

長期間使用しないときの手入れ

長期間使用しない場合、または作業を終了して長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

30 日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレター内の燃料を抜いてください。

- ・燃料を抜かないと、ガソリンが劣化して次回使用時に始動困難となり、故障の原因となります。

⚠ 注意

エンジン停止直後はマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっており、ヤケドをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

1 燃料を抜いてください。

⚠ 警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

- ・換気の良い場所で行ってください。
- ・火気を近づけないでください。
- ・ガソリンはこぼれないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

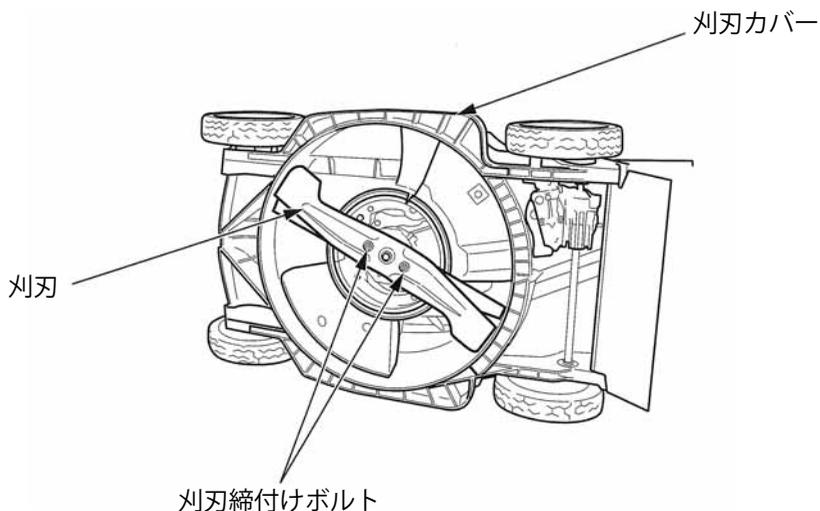
＜抜き方＞

1. エンジンを停止して、燃料タンクキャップを外し、市販のガソリン用ポンプなどを使用して燃料タンク内の燃料を専用容器に移してください。電動式のポンプは使用しないでください。
2. 燃料タンクから燃料を抜き終わりましたら燃料タンクキャップを締め、エンジンを始動して（24 頁参照）残った燃料を使い切って止まるまで運転します。
 - 本機を離れる場合は、必ずエンジンを止めてください。思わぬ事故を引き起こす場合があります。
3. エンジンの停止を必ず確認し、万一の始動を防ぐため点火プラグキャップを点火プラグから取外し、燃料コックレバーを“止”の位置にします。

取扱いのポイント

- ・次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。
- ・ガソリンは自然に劣化しますので 30 日に 1 回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

- 2 エンジンオイルを交換してください。(交換方法は 37、38 頁参照)
- 3 エアクリーナーを清掃してください。(清掃方法は 39 頁参照)
- 4 本機を右側（マフラー側）に倒し、刈刃及び各部を清掃し、刈刃が確実に締まっていることを確認してください。(23 頁参照)
刈刃にエンジンオイルを塗布してください。

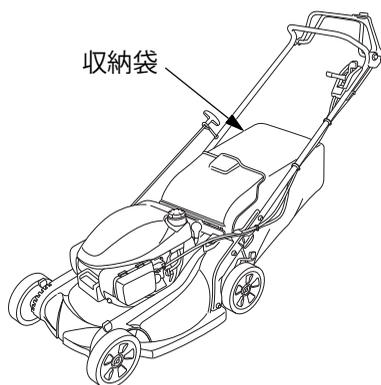


- 5 左手でハンドルを握り、右手で始動グリップを引き、重くなったところで止めてください。

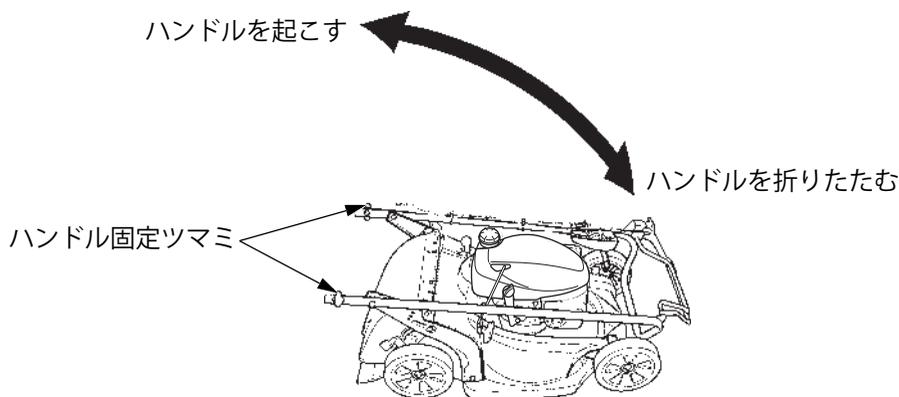


6 収納袋を取外し、清掃してください。

収納袋が目詰まりをしているときは水洗いをし、十分に乾燥させてから取付けてください。



7 左右のハンドル固定つまみを90° 回し、ハンドルを折りたたみます。



・ ケーブルがハンドル固定つまみに引掛からないように注意してください。

8 カバーをかけ、風通しの良い場所に保管してください。

取扱いのポイント

本機を使用する場合、ハンドルを作業時の位置に戻してください。

1. 点火プラグキャップが点火プラグから外れていることを確認します。
2. ハンドルをゆっくり起し、ハンドル固定つまみで固定します。(15 頁参照)
3. ケーブルが無理に引っ張られていないこと、各レバーの遊びが正規であることを確認します。
4. 点火プラグキャップを点火プラグに確実に取り付けます。

故 障 の と き は

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店またはサービス店にお申しつけください。

①エンジンが始動しない

点検	原因	解決方法
燃料コックレバーの確認をしてください。	燃料コックレバーが“OFF”（止）の位置にある。	燃料コックレバーを“ON”（出）の位置にしてください。（24頁参照）
エンジン回転調節レバーを確認してください。	エンジン回転調節レバーが間違った位置にある。	まだエンジンが暖かくないときはエンジン回転調節レバーを“  ”（低速）の位置にしてください。（28頁参照）
燃料の確認をしてください。	燃料が入っていない。	燃料の補給をしてください。（18頁参照）
	燃料が無鉛レギュラーガソリン以外のもの、または粗悪ガソリンを入れている。	お買いあげ販売店またはサービス店にお申しつけください。
点火プラグの確認をしてください。	点火プラグが標準プラグ以外のものを使用している。火花すき間が合っていない。	標準プラグを使用してください。（40頁参照） 火花すき間の調整（40頁参照）、または点火プラグを交換してください。（40頁参照）
	点火プラグが濡れている。	点火プラグを乾かし、取付けてください。

②うまく刈取りができない

点検	原因	解決方法
エンジン回転調節レバーを確認してください。	エンジン回転調節レバーが“  ”（低速）の位置にある。	エンジン回転調節レバーを“  ”（高速）の位置にしてください。（28頁参照）
芝生の状態を確認してください。	芝生が過度に高い、または濡れている。	刈取り高さを高くしてください。（26頁参照） 走行速度を遅くしてください。（30頁参照） 芝生が乾いているときに芝刈り作業をするか、クリップディレクターノブを“BAG”側から1番目の調節溝に合わせてください。（27頁参照）
本機の刈取り部を確認してください。	芝生や刈取った芝が詰まっている。	刈取り部を清掃してください。（21頁参照）
エアクリーナーを確認してください。	ろ過部が汚れている。	ろ過部の清掃または交換をしてください。（39頁参照）
燃料の確認をしてください。	燃料が無鉛レギュラーガソリン以外のもの、または粗悪ガソリンを入れている。	燃料タンクとキャブレターから燃料を抜き（44頁参照）、新しい燃料を補給してください。（18頁参照）

③本機の過度の振動

点検	原因	解決方法
刈取り部と刈刃を確認してください。	刈取り部に刈取った芝や異物が詰まっている。	刈取り部を清掃してください。(21 頁参照)
	刈刃締付けボルトがゆるんでいる。 刈刃の割れ、欠損、曲りまたは不均等に摩耗している。	刈刃締付けボルトを確実に締付けてください。(23 頁参照) 刈刃に割れ、欠損、曲りまたは摩耗がありましたら、お買いあげ販売店またはサービス店で交換してください。(22 頁参照)

④本機性能の低下

点検	原因	解決方法
エンジン回転調節レバーが “  ” (低速) の位置にあることを確認してください。	エンジン回転調節レバーが “  ” (高速) の位置にある。	エンジン回転調節レバーを “  ” (高速) の位置にしてください。(28 頁参照)
刈取り高さ調節レバーを確認してください。	前後左右の刈取り高さ調節レバーが違う位置にある。	前後左右の刈取り高さ調節レバーを同じに調節してください。(26 頁参照)
収納袋を確認してください。	収納袋が一杯になっている、または目詰まりをしている。	収納袋を空にしてください。ほこりなどで目詰まりを起していたら、収納袋を洗ってください。(34 頁参照)
刈取り部と刈刃を確認してください。	刈取り部に刈取った芝や異物が詰まっている。	刈取り部を清掃してください。(21 頁参照)
	刈刃の切れが摩耗により鈍くなっている。または刈刃に問題がある。	刈刃に割れ、欠損、曲がりまたは摩耗がありましたら、お買いあげ販売店またはサービス店で交換してください。(22 頁参照)

主 要 諸 元

名 称	HRX537C5
型 式	MAMA

エンジン

形 式	強制空冷 4 ストローク 単気筒 OHV
排 気 量	201cm ³
内 径 × 行 程	66.0×59.0mm
点 火 方 式	トランジスタマグネト式
オ イ ル 容 量	0.40L
燃 料 タ ン ク 容 量	0.91L
点 火 プ ラ グ	BPR5ES (NGK)

フレーム

全 長	1665mm
全 幅	588mm
全 高	1122mm
刈 幅	530mm
刈 高	19 ~ 101mm (前後 7 段階)
収 納 袋 容 量	88L
乾 燥 質 量 (重 量)	44.2kg

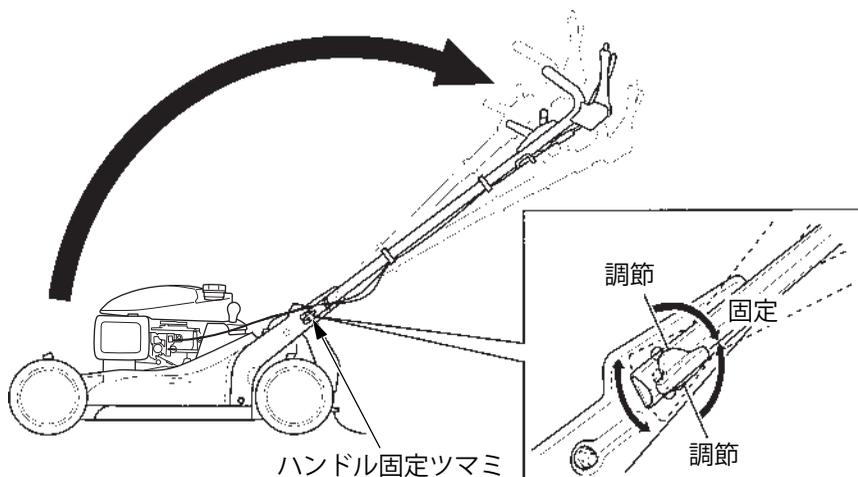
注意：諸元は、予告なく変更することがあります。

本機の組立てかた

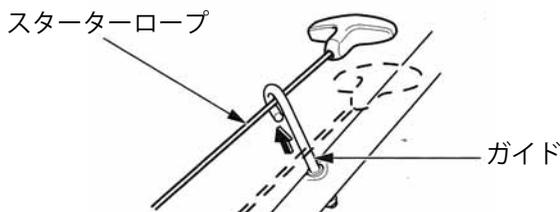
次の手順と要領でハンドルおよび収納袋を組立ててください。
なお、説明に使用しているイラストが一部実機と異なる場合がありますが、組立て関係は同じですのでご了承ください。

ハンドル

1. ハンドル下部のハンドル固定つまみが調節の位置にあることを確認し、ハンドルを刈取り位置へ引き起してください。



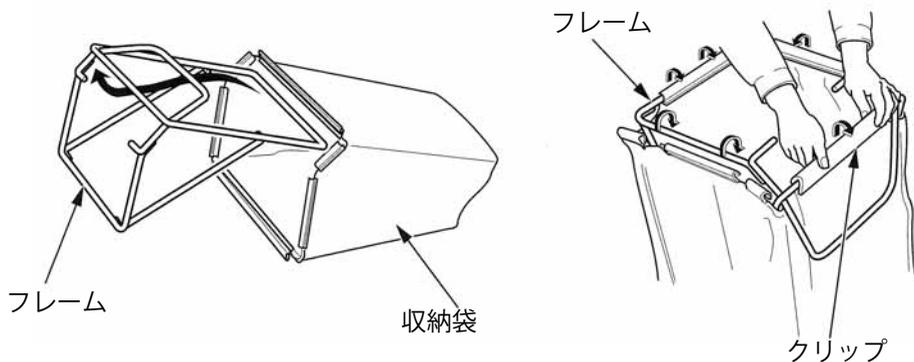
2. 作業者に合ったハンドル高さに調節し、ハンドル固定つまみを 90° 回してハンドルを固定してください。
3. スターターロープをハンドルパイプのガイドに通してください。



4. タイストラップが正しい位置にあることを確認してください。(42 頁参照)
5. ブレードブレーキクラッチケーブルおよび走行クラッチケーブルの点検・調整を行ってください。(41～43 頁参照)

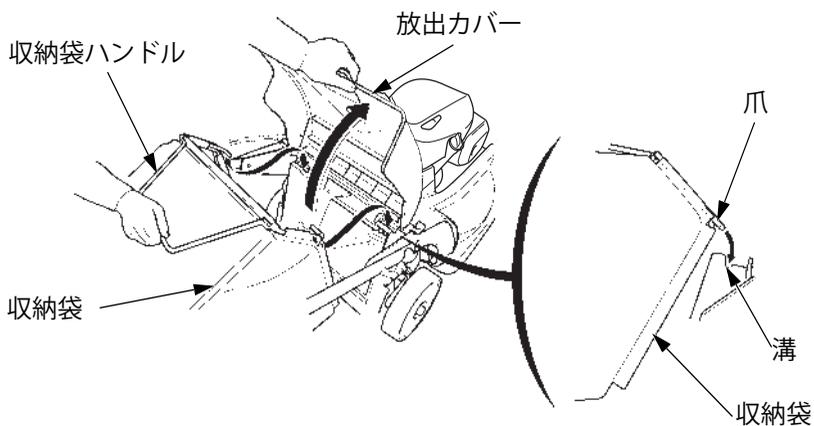
収納袋の組立

1. 収納袋のフレームを収納袋に差込みます。
2. 収納袋のプラスチック製のクリップをフレームにはめ込みます。



収納袋の取付け

1. 本機の放出カバーを開きます。
2. 収納袋のフレーム先端の爪を本機の溝に合わせて取付けます。



本製品についてのお問い合わせ・ご相談は、まず、
Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通フリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル 0120-112010

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00
〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

本製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

- ①製品名、タイプ名
- ②ご購入年月日
- ③販売店名
- ④フレーム号機 _____

(書込み控え欄)

HONDA

HRX537
30VH7622
00X30-VH7-6220

© 2022 本田技研工業株式会社
Printed in Japan